

講義名	教養特講（日本経済の課題）			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
			ナンバリング・コード	FYE110	

#### 主題と概要

日本の経済はバブル経済の崩壊後、ずっと低迷した状態で、しかも世界的なコロナ問題にも直面し、どこに向かっていくのかますます不透明となっています。そのような中、流通経済大学に入学された皆さんは、将来のビジネスパーソンとして、日本や世界の経済、経営について勉強することになります。この講義は、後期に開講される経済学入門への橋渡しとしての講義であり、高校で学んだ現代社会や政治経済を土台にして、経済学の考え方、分析道具を勉強します。そして最近、ニュースや新聞で報じられている様々な日本経済の課題について勉強してゆきます。

#### 到達目標

- (1) 高校で学んだ現代社会、政治経済の経済分野の考え方を、現実の経済問題に適用できるようになる
- (2) 現在の日本の経済問題とその解決方法を、考えることができるようになる
- (3) 現在の日本の経済問題とその解決方法を考えられるようになる
- (4) 新聞やニュースで報じられる日本の経済問題を理解できるようになる

#### 提出課題

クリッカー機能を通じて、5回の講義につき1回の課題（合計3回）を課します。

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解答はAyuKaポータルで送信します。

#### 評価の基準

課題提出（30%）  
 期末課題（70%）  
 なお毎回の講義で出席を確認します。  
 欠席回数が5回に達した時点で、単位認定対象者から除外します。

#### 履修にあたっての注意・助言他

できるだけニュースを見る、新聞を読む癖をつけ、日本や世界経済の最近の動きに興味をもってください。  
 講義では日本経済新聞の経済教室を利用した講義が複数あります。  
 日本経済の最近の動きに興味がない、このようなタイプの講義理解が困難ですので、普段からニュースを見る、新聞に目をとおすなどしてください。

#### 教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

#### 参考図書

.マッキュー入門経済学 第3版。	N・グレゴリー・マッキュー	東洋経済新報社	9784492315217
.ネットニュースではわからない本当の日本経済入門。	伊藤元重	東洋経済新報社	9784492396629
.日本経済入門 第2版。	日経ビジネス	日経BP	9784296105107

#### その他

毎回の講義で扱う講義スライドはキャンバスクロスにアップします。  
 資料は教室内で配布します。

#### 授業計画

- 1 なぜ経済学を勉強するのか？・経済学の考え方に慣れよう
- 2 需要・供給の考え方（1）
- 3 需要・供給の考え方（2）
- 4 これからの日本の財政金融（1）
- 5 これからの日本の財政金融（2）
- 6 年金 何が問題？（1）
- 7 年金 何が問題？（2）
- 8 これからの消費税 どのように向き合うべき？（1）
- 9 これからの消費税 どのように向き合うべき？（2）
- 10 物価問題（1）
- 11 物価問題（2）
- 12 これからの日本経済と社会の在り方（1）
- 13 これからの日本経済と社会の在り方（2）
- 14 これからの日本経済と社会の在り方（2）
- 15 講義全体のまとめ

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

#### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義スライドの予習。必要に応じて参考書の内容確認（2時間程度）  
 講義で利用した講義スライド、資料で講義内容を復習。必要に応じて参考書を読む（2時間程度）

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義は、流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、特に「知識を応用に変換することができる、論理的思考力を持った人材」との結びつきが強いです。講義で扱うさまざまなトピックを通じて、特に「困難や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき問題を設定することができる（課題発見力）」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）」を養うことを目標としています。講義で学んだトピック、考え方を活用して、各種新聞の記事内容を深く理解できることも目標とします。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クリッカー機能を利用する場合は、事前に案内をします。

#### 実務経験の有無及び活用

該当なし

#### 備考

自己都合による遅れての教室の入室（遅刻）に対しては、講義を中断して講義ノート類の配布をしません。定時までには必ず教室へ入室してください。  
 課題は全て提出しましょう。課題提出の回数が不足し、不可となる受講生がいるからです。  
 講義には全て出席しましょう。欠席回数が5回に達しているにもかかわらず期末課題を提出しても、単位認定対象者から除外されるので注意してください。